

- 問1 当時の社会では、「白河の清きに魚の住みかねて 元の濁りの田沼恋しき」という、松平定信の政治を風刺した狂歌が流行しました。この歌が詠まれた背景として、松平定信が行った「寛政の改革」の内容について正しく説明しているものはどれですか。 (2023年 秋田県公立入試 類似)
1. 武士の士気を高めるため、聖堂学問所において朱子学以外の講義を禁止した。
 2. 幕府の財政を立て直すため、株仲間を積極的に奨励して運上金を徴収した。
 3. 極端な動物愛護を命じる「生類憐みの令」を出し、違反者を厳しく処罰した。
 4. 財政難を補うため、金銀の含有量を減らした質の悪い貨幣を大量に発行した。
- 問2 江戸時代の全国の大名配置を記した資料を分析すると、東北、四国、九州などの日本の縁辺部には、特定のグループの大名が多く配置されていることがわかります。幕府が、関ヶ原の戦い前後から従った「外様大名」を、このように江戸から遠い場所に配置した主な理由として適切なものはどれですか。 (2021年 和歌山公立入試 類似)
1. キリスト教の布教を促進させるため、あえて海外に近い地域を領地として与えたから。
 2. 万が一反乱を起こした場合でも、江戸への進撃を遅らせるなどの安全保障上の措置をとったから。
 3. 徳川氏との親密な関係を考慮し、豊かな鉱山資源が多い地方の統治を優先的に任せられたから。
 4. 江戸周辺の防衛を強化するため、戦術に優れた有力な大名を意図的に集めたから。
- 問3 1873年にウィーンで開催された万国博覧会に関連する記述において、18世紀末に世界で最も早く産業革命を実現し、高度な技術力を披露した国が登場します。この国の首都として適切な都市名を次から選びなさい。 (2021年 京都公立入試 類似)
1. ロンドン
 2. パリ
 3. ベルリン
 4. ローマ
- 問4 日本の伝統文化が成立・大成した時期と、それに関わった人物や文化の組み合わせについて、時代順に正しく並んでいるものはどれですか。 (2023年 神奈川県公立入試 類似)
1. 観阿弥・世阿弥による能楽の完成（室町時代）→ 千利休によるわび茶の完成（安土桃山時代）→ 近松門左衛門による歌舞伎や人形浄瑠璃の発展（江戸時代）
 2. 千利休によるわび茶の完成（安土桃山時代）→ 観阿弥・世阿弥による能楽の完成（室町時代）→ 近松門左衛門による歌舞伎や人形浄瑠璃の発展（江戸時代）
 3. 観阿弥・世阿弥による能楽の完成（室町時代）→ 近松門左衛門による歌舞伎や人形浄瑠璃の発展（江戸時代）→ 千利休によるわび茶の完成（安土桃山時代）
 4. 近松門左衛門による歌舞伎や人形浄瑠璃の発展（江戸時代）→ 観阿弥・世阿弥による能楽の完成（室町時代）→ 千利休によるわび茶の完成（安土桃山時代）
- 問5 1637年、九州の島原半島や天草諸島において、領主による過酷な年貢の取り立てやキリスト教への厳しい弾圧に対して、農民やキリスト教の信者らが起こした大規模な一揆を何というか。 (2017年 岩手県公立入試 類似)
1. 島原・天草一揆
 2. 加賀の一向一揆
 3. 正長の徳政一揆
 4. 山城の国一揆
- 問6 江戸時代後期の化政文化において、滝沢（曲亭）馬琴によって著された長編の読本（小説）はどれか。 (2017年 北海道公立入試 類似)
1. 南総里見八犬伝
 2. 源氏物語
 3. 徒然草
 4. 東海道中膝栗毛
- 問7 江戸時代の政治改革とその主導者、および幕末の動乱へ至る歴史的な流れを整理したとき、時系列として適切な記述を選びなさい。 (2019年 福島県公立入試 類似)
1. 徳川吉宗が享保の改革で実利的な学問を奨励した後、松平定信が寛政の改革を行い、水野忠邦が天保の改革を断行した。その後、ペリーの来航により日本は開国へと向かった。
 2. 松平定信による寛政の改革が失敗した直後に徳川吉宗が将軍となり、その後水野忠邦が天保の改革を行い、最後にペリーが来航して開国した。
 3. 徳川吉宗が享保の改革を行った後、水野忠邦による天保の改革、松平定信による寛政の改革と続き、それらの改革がすべて終わった直後にペリーが来航した。
 4. 水野忠邦が天保の改革で株仲間の解散を命じた後、松平定信が寛政の改革を行い、最後に徳川吉宗が享保の改革を行ったことで江戸幕府の支配体制が完成した。
- 問8 徳川吉宗による享保の改革期において、幕府の年貢収納高が右肩上がりに増加している一方で、都市部での米価は大幅に下落する傾向にありました。このような状況が幕府や武士に与えた影響と、それに対してとられた政策の背景を説明したものとして、最も適切なものはどれですか。 (2025年 山口公立入試 類似)
1. 米の供給過剰によって米価が下がると、米を売って生活費を得ていた武士が困窮したため、幕府は米価を上げる目的で市場の整備や調整を行った。
 2. 米の不作によって価格が高騰し、都市部で打ちこわしが頻発したため、幕府は米の流通を制限して価格を無理やり引き下げようとした。
 3. 貨幣の質を落としたことで物価全体が上昇したため、米の価値が相対的に低くなり、幕府は質の高い貨幣に戻すことで物価の安定を図った。
 4. 定免法の導入により年貢収入が安定しなくなったため、幕府は米の代わりに商品作物の栽培を奨励して農民の収入を増やそうとした。
- 問9 江戸時代中期に松平定信が行った寛政の改革では、学問や出版、人々の生活に対して厳しい統制が行われました。当時詠まれた「白河の清きに魚のすみかねて もとの濁りの田沼恋しき」という狂歌において、当時の人々が抱いていた感情や背景として最も適切な説明はどれですか。 (2018年 歴史公立入試 類似)
1. あまりに厳格な風紀の取り締まりや出版統制が行われ、生活が息苦しくなったことへの反感
 2. 役人の汚職が横行した田沼意次の政治に戻してほしいという、幕府全体の腐敗を正そうとする願い
 3. 生活の困窮を救うための積極的な公共事業が不足しており、経済の活性化を求める声
 4. 飢饉への対策が不十分であり、米の価格を安定させるための強力な指導力を期待する思い
- 問10 江戸時代初期に行われた朱印船貿易の仕組みについて、正しく説明しているものはどれか。 (2022年 徳島公立入試 類似)
1. 幕府が発行した朱印状を携えた船が、東南アジアとの間で貿易を行った。
 2. 明の皇帝から与えられた符節を使い、倭寇と区別して貿易を行った。
 3. キリスト教の布教を伴い、ポルトガルやスペインの船が日本に渡来した。
 4. 薩摩藩の支配のもと、琉球王国を介して中国との間で行われた。
- 問11 18世紀後半、老中の松平定信が主導した「寛政の改革」において、飢饉（ききん）などの非常時に備えるため、諸大名に対して石高1万石につき50石の米を貯蔵させた制度を何といいますか。 (2016年 大阪公立入試 類似)
1. 囲米
 2. 棄捐令
 3. 株仲間
 4. 目安箱
- 問12 江戸幕府は大名を徳川氏との親疎の度合いによって「親藩」「譜代」「外様」の3つに分類して統制しました。このうち、関ヶ原の戦いより後に徳川氏に従った、将軍家との縁故が薄い大名を何と呼びますか。 (2022年 島根公立入試 類似)
1. 親藩
 2. 譜代大名
 3. 外様大名
 4. 旗本

答え合わせ・解説

問1	答え 1 武士の士気を高めるため、聖堂学問所において朱子学以外の講義を禁止した。	狂歌にある「白河」は白河藩主であった松平定信を指し、「清き」は彼の厳格な政治姿勢を象徴しています。定信は「寛政異学の禁」として、幕府の学問所で朱子学以外の講義を禁じるなど、武士の思想統制を強めました。こうした息苦しいほどの潔癖な政治が、利権はあったものの景気が良かった田沼意次時代（濁りの田沼）を懐かしむ風潮を生みました。
問2	答え 2 万が一反乱を起こした場合でも、江戸への進撃を遅らせるなどの安全保障上の措置をとったから。	外様大名は、徳川氏との主従関係の歴史が浅く、幕府にとって潜在的な脅威となる可能性があります。そのため、將軍のいる江戸から物理的に距離を置いた場所に領地を配置し、さらに外様大名同士の領地の間に譜代大名を配置するなどして、反乱や共謀を困難にする軍事・政治的な計算がなされていました。
問3	答え 1 ロンドン	世界で最初に産業革命を成し遂げたのはイギリスです。その首都であるロンドンには、工業化による都市への人口集中が進み、世界の経済・政治の中心地として発展しました。イギリスは19世紀半ばには「世界の工場」と呼ばれるほどの圧倒的な工業力を誇りました。
問4	答え 1 観阿弥・世阿弥による能楽の完成（室町時代）→ 千利休によるわび茶の完成（安土桃山時代）→ 近松門左衛門による歌舞伎や人形浄瑠璃の発展（江戸時代）	室町時代に足利義満の保護を受けた観阿弥・世阿弥が能楽を大成させ、その後の安土桃山時代には千利休が茶の湯（わび茶）を完成させました。さらに江戸時代になると、近松門左衛門が脚本を手がけたことで、歌舞伎や人形浄瑠璃が庶民の娯楽として大きく発展しました。この時代の流れを把握することが重要です。
問5	答え 1 島原・天草一揆	この一揆は江戸幕府を揺るがす最大規模の内乱となりました。この後、幕府はキリスト教の禁止を徹底するため、ポルトガル船の来航禁止や鎖国の完成へと政策を強めていくことになりました。選択肢にある「加賀の一向一揆」は室町時代に浄土真宗の門徒が起こしたものです。
問6	答え 1 南総里見八犬伝	江戸時代後期、江戸の町人を中心に栄えた化政文化では、貸本屋などを通じて多くの文学作品が読まれました。滝沢馬琴は勧善懲悪をテーマにした『南総里見八犬伝』を著し、人気を博しました。「源氏物語」は平安時代の紫式部、「徒然草」は鎌倉時代の兼好法師の作品であり、「東海道中膝栗毛」は同じ化政文化の十返舎一九による作品です。
問7	答え 1 徳川吉宗が享保の改革で実利的な学問を奨励した後、松平定信が寛政の改革を行い、水野忠邦が天保の改革を断行した。その後、ペリーの来航により日本は開国へと向かった。	江戸幕府の改革は、1720年代の「享保の改革（徳川吉宗）」、1780年代末からの「寛政の改革（松平定信）」、1840年代の「天保の改革（水野忠邦）」という順で、約50年程度の間隔を空けて実施されました。天保の改革の失敗後、1853年にペリーが来航し、日本はそれまでの鎖国政策を改めて開国へと踏み出すこととなります。それぞれの改革が当時の社会問題（飢饉や物価高騰）に対処しようとした背景を理解することが重要です。
問8	答え 1 米の供給過剰によって米価が下がると、米を売って生活費を得ていた武士が困窮したため、幕府は米価を上げる目的で市場の整備や調整を行った。	当時の武士は農民から年貢として徴収した米を市場で換金して生活していたため、米の値段が下がることは実質的な収入の減少を意味しました。享保の改革によって年貢の取れ高は増えましたが、市場に米があふれた（供給過剰）ことで「米安・諸色高（米以外の物価が高い状態）」を招き、武士の財政を圧迫しました。このため、徳川吉宗は米価を引き上げるための市場介入を余儀なくされました。
問9	答え 1 あまりに厳格な風紀の取り締まりや出版統制が行われ、生活が息苦しくなったことへの反感	松平定信は、田沼意次の時代の賄賂政治や風紀の乱れを正そうと、質素倹約を強制し、厳しい出版統制や「寛政異学の禁」による思想統制を行いました。しかし、このあまりに清廉潔白で厳格な政治は、民衆にとって非常に窮屈なものでした。狂歌にある「白河」は定信の領地であった白河藩（および定信本人）を指し、「濁りの田沼」は賄賂政治で批判されたものの経済的には活気があった田沼意次の時代を指しています。魚が清流では住みづらいのと同様に、人々は自由が制限された定信の政治に反発し、かつての緩やかな時代を懐かしんだことが表現されています。
問10	答え 1 幕府が発行した朱印状を携えた船が、東南アジアとの間で貿易を行った。	徳川家康は海外貿易を奨励し、渡航の安全を保证するために「朱印状」を与えた商船に限って貿易を認めました。選択肢にある明との勘合貿易や、キリスト教布教を伴った南蛮貿易とは、時代背景や貿易を管理する主体の仕組みが異なります。
問11	答え 1 囲米	松平定信は天明の飢饉による深刻な食糧不足を教訓とし、自治組織に「七分積金」を命じるとともに、大名には「囲米」として米の備蓄を義務付けました。これにより、将来の凶作や災害に対する備えを強化しようとしたのです。
問12	答え 3 外様大名	江戸幕府を開いた徳川家康は、関ヶ原の戦いを境に大名を区別しました。戦以前から徳川氏に仕えていた大名を譜代大名、戦以後に従った大名を外様大名としました。外様大名は將軍家とのつながりが薄いため、幕政の重要な役職からは排除される傾向にありました。